

# 論理性を評価する力を育成する高等学校国語科学習指導の工夫

## — 批判的思考のスキルを習得する学習活動を通して —

広島県立高陽東高等学校 横田 智佳

### 研究の要約

本研究は、論理性を評価する力を育成する高等学校国語科学習指導の工夫を考察したものである。文献研究から、論理性を評価する力は、考えの筋道の通し方において、文章の構成や展開の有り様や、それが、要旨などを伝えるために果たしている効果などの価値を判じる能力であり、文章における確実な根拠に基づいて客観的に分析、考察する能力であるとした。この力を高めるためには、文章にある情報を客観的に捉え、その確かさや書き手の表現意図の本質を見抜く批判的思考のスキルを習得させることができると考えた。そこで、批判的思考のスキルを生徒に習得させ、文章の論理性を評価する学習活動を行った。生徒は、スキルの習得を通して論理性を評価する際の観点を身に付け、その観点に沿って文章を評価することができた。このことから、批判的思考のスキルを習得する学習活動は、論理性を評価する力を育成することに有効であるといえる。

**キーワード：**論理性を評価する 批判的思考

## I 研究題目設定の理由

### 1 学習指導要領の改訂と論理性を評価することについて

高等学校学習指導要領（平成21年、以下「指導要領」とする。）国語の「現代文B」の指導事項アとして、「文章を読んで、構成、展開、要旨などを的確にとらえ、その論理性を評価すること。」<sup>1)</sup>が示されている。この中の「論理性を評価する」は、平成21年の改訂で初めて示された事項である。

この事項については、高等学校学習指導要領解説国語編（平成22年、以下「解説」とする。）において、「どのような文章を読む際にも重要なことであり、生徒の論理的な思考力の育成に直接役立つ。」<sup>2)</sup>と説明があり、全ての生徒に求められる重要な力であることが述べられている。

しかし、PISA調査（2009）の結果についての文部科学省の報告を見ると、高校生の読解力の実態について、内容の読み取りにあたる「情報へのアクセス・取り出し」は得意だが、論理性を評価する活動が含まれる「統合・解釈」はやや苦手であるという課題が存在することが分かる。

これらのことから、論理性を評価することは、これから国語科学習指導の中で、特に求められていくことであるといえる。

## 2 高等学校における現状

高等学校での授業をみると、文章の内容の読み取りに終始することが多く、論理性を評価する学習活動は少ない。高等学校における「読むこと」の授業について、西辻正副（平成21年）は、「多様な言語活動を通して指導するという意識がなく、指導者が、文章の内容や表現の仕方に関する説明をしてしまい、説明を通して生徒に文章の理解を促すというような指導がまだ多くみられる。」<sup>3)</sup>と述べている。

その要因は、大学入学試験における出題内容の傾向にあると考える。大学入学試験を意識した授業展開から内容の読み取りに終始することが多くなってしまうことは、中央教育審議会の教育課程部会国語専門部会においても指摘されている。

指導要領の改訂や高等学校での現状から、「読むこと」における論理性を評価する力の育成が急務であると考え、本研究題目を設定し、その育成方法を提案する。

## II 研究の基本的な考え方

### 1 論理性を評価する力について

#### (1) 論理性を評価する力とは

「論理性を評価する」については、「解説」において、「『論理』とは、考えの筋道の通し方である。

それを『評価する』とは、文章の構成や展開の有り様や、それが、要旨などを伝えるために果たしている効果などを分析、考察し、その価値を判じることである。」<sup>4)</sup>と定義されている。また、「論理性」については、「国語表現」の指導事項ウにおいて、「内容を確実な根拠に基づいた妥当な推論によって導」<sup>5)</sup>くものと説明がある。

これらのことから、「論理性を評価する力」とは、考えの筋道の通し方において、文章の構成や展開の有り様や、それが、要旨などを伝えるために果たしている効果などの価値を判じる能力であり、文章における確実な根拠に基づいて客観的に分析、考察する能力であると考える。

論理性を評価する際の具体的な観点として考えられる例を次に示す。これらの観点を意識することで、より客観的な評価になると考える。

- ・意見の根拠を述べている。
- ・意見の根拠に客観性がある。
- ・他の意見について触れ、反証がある。
- ・論に一貫性がある。

#### 論理性を評価する際の観点の例

### (2) 「評価する」指導事項の系統性

「指導要領」において、論理性を評価することは、「読むこと」における「自分の考えの形成に関する指導事項」に該当する。この指導事項において中学校との系統性を見ていくと、「評価」という学習活動は、中学校第3学年で初めて示され、「国語総合」「現代文B」へとつながっている。

「国語総合」までと「現代文B」との「評価」の違いは、「現代文B」において、評価するものに「論理性」という新しい視点が加わったことにある。このことから、評価する際には、論の展開が、確実な根拠に基づいた妥当な推論によってなされているかについて吟味することを特に意識することが重要であると考える。

## 2 批判的思考のスキルを習得して論理性を評価することについて

### (1) 批判的思考とは

「批判的思考」について、国立教育政策研究所は、「特定の課題に関する調査（論理的な思考）調査結果」（平成25年）の中で、「送られてくる情報の真偽・正誤・適否等について、自ら確かめ評価しながらこれを受け止めようとする精神的態度を指す。」<sup>6)</sup>

と説明している。また、有元秀文（2008）は、「『どんな問題点があるかを客観的に観察して、よいか悪いかの評価を行い、どうしたら問題を解決できるか』を考えること」<sup>7)</sup>と定義し、道田泰司（2000）は、平易な定義として「見かけに惑わされず、多面的にとらえて、本質を見抜くこと」<sup>8)</sup>と述べている。

これらのことから、批判的思考とは、文章にある情報を客観的、多面的に捉え、その確かさや書き手の表現意図の本質を見抜くことと考える。

また、国立教育政策研究所や有元が、批判的思考について「評価」という言葉を使って説明していることからも、批判的思考は、評価をする際の基盤となる思考であるといえる。

### (2) 批判的思考のスキルを習得して論理性を評価する学習活動の具体

批判的思考のスキルとは、批判的思考を働かせる技能である。楠見孝（2011）は、「問い合わせを出し、重要な言葉やわからない言葉に着目する、意見と事実を区別する、他の人の発言と関連付けるといった批判的思考スキルは、授業、とくに国語の読解において指導されている重要なスキルである。今後、読解指導において重視されるのは評価しながら読む力の育成である。」<sup>9)</sup>と述べている。このことから、論理性を評価する力を高めるためには、批判的思考のスキルの習得が求められているといえる。

学習活動においては、ワークシートの使用によって、スキルを習得するというねらいを明確にする。スキルの汎用性を高めるため、ワークシートは単純化する必要があると考える。そして、複数のテキストにおいて論理性の評価を繰り返すことで、一つのテキストに用いるスキルを他にも汎用できるスキルへと一般化できる。

本研究授業では、スキルを習得しながら論理性を評価する力を身に付けていくため、まず、論理が明確である教科書の文章において、筆者が論理の上でどのような工夫をしているかを評価する。この学習活動を通して、評価の観点について学習し、論理性を評価するとはどういうことかについて理解する。その後、教科書の文章を通して学んだ論理を基に、実用的な文章で批判的思考のスキルを使って論理性を評価する練習を重ねる。本研究授業では、新聞の投書記事を使用する。同じテーマについての複数の意見を比較することにより、それぞれの意見を客観的、多面的に捉え、その確かさや書き手の表現意図を見抜き評価していく。論理的な文章における論理性を評価する学習活動や批判的思考のスキルの具体

を図1に示す。

ステップ1として、批判的思考のスキルによって文章を分析し、論理の骨格となる要素について検討する。その際、生徒から文章に関する疑問を提示させるのは、批判的思考を意識させるためである。

ステップ2として、ワークシートを使って文章の構成や表現の仕方を整理し、その効果について考える。そして、筆者の表現意図を捉え、意見や根拠の客観性や妥当性を判じる。

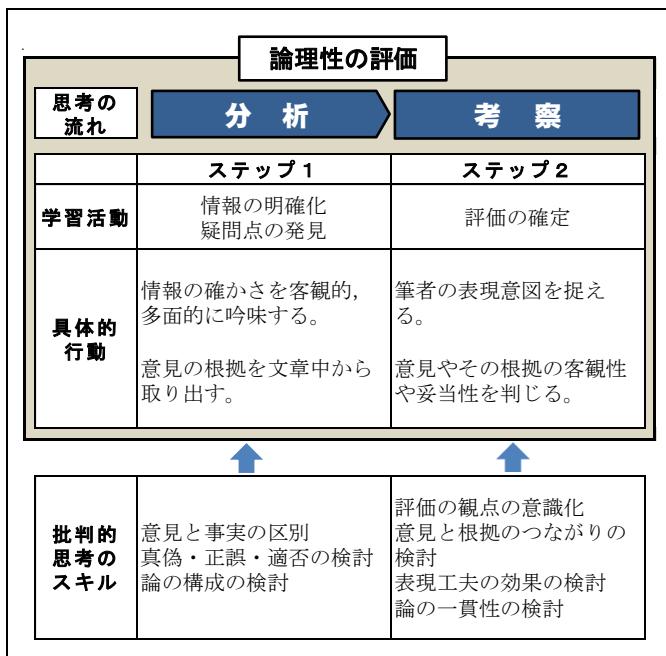


図1 論理的な文章における論理性を評価する学習活動

### III 研究の仮説及び検証の視点と方法

#### 1 研究の仮説

「現代文B」の「読むこと」の学習活動において、批判的思考のスキルを習得すれば、論理性を評価する力を育成することができるであろう。

#### 2 検証の視点と方法

検証の視点と方法について、表1に示す。

表1 検証の視点と方法

検証の視点	方法
<input type="radio"/> ○ 論理性を評価する力が高まったか。 ・力1：文章中の根拠を基にして評価することができているか。 ・力2：文章の構成や展開から筆者の表現意図を捉えることができているか。	プレテスト ポストテスト

○ 批判的思考のスキルを習得する学習活動は、論理性を評価する力の育成に有効であったか。	ワークシート プレテスト ポストテスト
---	---------------------------

#### (1) プレテスト・ポストテスト

プレテスト・ポストテストでは、高校生が電子辞書を使用することの是非について意見が述べられている二つの文章を比較し、どちらの文章がより説得力があるかを、理由も併せて記述させる。その文章を表2に、判断基準を表3に示す。

表2 プレテスト・ポストテストの問題文

A	B
私は、高校生が電子辞書を使用することに反対だ。紙の辞書を使用した方が、言葉の力を高めることに効果的だからだ。確かに、電子辞書には素早く検索できるという利点がある。しかし、電子辞書では、単語の意味を調べることにとどまり、関連する語の意味や例文まで目にはしない。言葉を学んでいる最中の高校生は、単に単語の意味を知るだけでなく、例文を読んだり調べた単語以外の言葉も目にしたりすることによってその語の使い方を知ることが重要だ。だから、高校生は電子辞書を使用しない方が良い。	私は、高校生が電子辞書を使用することに反対だ。電子辞書は高価であるからだ。音楽プレーヤーなど高価な物の持ち込み禁止が一般的な高校では、使用禁止にしているところも多い。電子辞書はコンパクトで持ち運びに便利という利点もあるが、紙の辞書の方が良いという人はいまだに多い。高校での学習には紙の辞書で十分である。最近は、何でも「やばい」の一言で表現してしまうなど若者の言葉の乱れがよく指摘される。これは言葉の数の不足が原因だ。高校生は、辞書をしっかりと引いてもっと言葉の数を増やす学習に取り組むべきだ。

表3 プレテスト・ポストテストの判断基準

論理性の評価がで きている	A	論理性の評価の観点に沿って文章の記述を根拠に評価しており、その根拠の客観性について言及している。
	B	論理性の評価の観点に沿って評価しており、その根拠を文章の記述に求めている。
論理性の評価がで きていな い	C	論理性の評価の観点に沿って評価しているが、文章の記述を根拠にしていない。
	D	論理性の評価の観点に沿って評価していないなかったり、内容の読み取りに間違いがあったりする。

## IV 研究授業

### 1 研究授業の内容

- 期間 平成25年7月10日～平成25年7月18日
- 対象 所属校第2年次（2学級74人）
- 単元名 論理性の評価
- 目標

批判的思考のスキルの習得を通して、文章の構成、展開、要旨などを的確に捉え、その論理性を評価する。

### 2 指導計画（全5時間）

次時	学習活動
1	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 教科書「『未成熟』が人間を作った」           <ul style="list-style-type: none"> <li>・各形式段落の中心となっている文の位置から文章全体の中心となっている段落を探す。</li> <li>・キーワードの意味の確認など、筆者の意見の中心となっている一文の分析をし、その意見の根拠を明らかにする。</li> </ul> </li> </ul>
2	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 教科書「『未成熟』が人間を作った」           <ul style="list-style-type: none"> <li>・文章全体を通読する。</li> <li>・批判的思考のスキルによって論理性の評価をしていくことを学習する。</li> <li>・筆者の意見とその根拠とのつながりを確認する。</li> </ul> </li> </ul>
3	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 教科書「『未成熟』が人間を作った」           <ul style="list-style-type: none"> <li>・表現の工夫の仕方を整理し、その工夫から生まれる効果について学習する。</li> <li>・筆者の主張や論の展開の仕方の特徴をまとめめる。</li> <li>・論理性の評価とはどういうことかを理解する。</li> </ul> </li> </ul>
4	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 新聞記事（投書記事）           <ul style="list-style-type: none"> <li>・記事の疑問点、問題点を挙げる。</li> <li>・ワークシートにある観点に沿って論理性の評価をする。</li> </ul> </li> </ul>
5	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 新聞記事（投書記事）           <ul style="list-style-type: none"> <li>・前時に行った論理性の評価をまとめ、記述する。</li> </ul> </li> </ul>

### 3 ワークシートの工夫

#### （1）教科書の学習におけるワークシート

教科書と新聞記事それぞれにおいて、評価のためのワークシートを用意した。

教科書の文章においては、論理の上で筆者が行っている工夫を確認できるワークシートを用いた。その全体を図2・図3に分けて示す。

図2は、筆者の表現意図を捉える学習活動の部分である。ワークシートにおいて、意見と根拠のつながりについて生徒が思考の過程に沿って記入し、視覚的に確認できるよう工夫をした。

問い	言葉	具体的な内容	具体的な内容の保持による	問い	言葉	具体的な内容	具体的な内容の保持による		
①	【ステップ1】問い合わせの中にある言葉を吟味する。				②	【ステップ2】根拠を説明する。			
筆者の意見と根拠のつながりを問う発問		中心となる一文にあるキーワードの意味を確認する。							

図2 ワークシート（意見と根拠のつながり）

まず、図中の①に意見の中心となる一文を抜き出し、その根拠を評価することを確認した。ステップ1として、意見の中心となる一文の中にあるキーワードを見付けて定義し、次に、ステップ2として、意見の根拠を明らかにした。そして、ステップ3として、②・③の括弧に文章中の意見とその根拠の文言を引用し、根拠の客觀性について吟味した。これにより、生徒は、主張を支える根拠の妥当さが論理性の確かさと直接に関わっていることを学ぶことができる。

反証	引用	具体性	比較	観点	工夫点の具体
評価の観点に関わる 言葉を入れさせる。					

図3 ワークシート（表現の工夫、まとめ）

また、図3の「表現の工夫」の表において、表現

の効果を整理した。表の完成を通して、生徒は表現における工夫の観点を学び、筆者の工夫を理解するとともに、その工夫がどのような効果を生むかについて学習することができる。また、今回の文章では、反証は用いられていなかったが、よく使われる表現の工夫としてワークシートの表には挙げておき、その観点についても学習できるようにした。

教科書の文章における評価の復習として、④のまとめの部分では、空欄に文章の内容に関わる文言ではなく、評価の観点に当たる言葉を入れ、論理の整っている文章の特徴をまとめた。

批判的思考のスキルとは、根拠の妥当さの確認や観点の意識化をすることであり、このワークシートの使用を通して身に付けさせることができる。また、そのようなスキルが、論理性の評価をする過程において重要なことを生徒は学習することができる。

## (2) 新聞記事の学習におけるワークシート

新聞記事での学習において使用するワークシートを図4に示す。長嶋茂雄氏の国民栄誉賞受賞の是非についての投書を二つ用意し、比較させながら論理性を評価させた。

## 4 授業の実際

新聞投書記事を用いて論理性を評価した学習活動の流れを図5に示す。批判的思考のスキルをしっかりと習得するため、評価は2回行った。

新聞・投書欄の論理性を評価しよう																																																																			
<p>■次の文は、長嶋茂雄氏の国民栄誉賞受賞に関する新聞への投書記事です。それぞれを読み、受賞に関わる意見に当たる部分に線を引いてみましょう。</p> <table border="1"> <tr> <td>Aさん（朝日新聞・平成25年5月16日付）</td> <td>Bさん（中国新聞・平成25年5月9日付）</td> </tr> <tr> <td colspan="2"> <p>（略）</p> </td> </tr> </table> <p>新聞・投書記事より引用</p> <p>他の選手と現役時代の実績を比較した上で、長嶋氏の受賞を「駄然としない」と述べている投書をAとし、「粋な計らいで納得」という立場で氏にまつわる様々な思い出を、国民栄誉賞受賞と関係のないものも併せて述べている投書をBとした。</p> <p>■上記の文章を読んで、疑問に思ったこと、納得いかないことをあげてみよう。</p> <p>（略）</p> <p>■上記の文章を次の観点に従って○・△・×で評価してみよう。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">観 点</th> <th colspan="2">A</th> <th colspan="2">B</th> <th rowspan="2">評価基準</th> </tr> <tr> <th>1回目</th> <th>2回目</th> <th>1回目</th> <th>2回目</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>一つの意見をはっきりと述べている</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>○：きちんとできている △：できているが十分ではない ×：できない</td> </tr> <tr> <td>意見の根拠を述べている</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>意見の根拠に客觀性（説得力）がある</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>具体例を用いて説明している</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>他の意見について触れている</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>他の意見に対する反論がある</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>比較・対比によって意見を導き出している</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>論に一貫性がある（矛盾・飛躍がない）</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>						Aさん（朝日新聞・平成25年5月16日付）	Bさん（中国新聞・平成25年5月9日付）	<p>（略）</p>		観 点	A		B		評価基準	1回目	2回目	1回目	2回目	一つの意見をはっきりと述べている					○：きちんとできている △：できているが十分ではない ×：できない	意見の根拠を述べている						意見の根拠に客觀性（説得力）がある						具体例を用いて説明している						他の意見について触れている						他の意見に対する反論がある						比較・対比によって意見を導き出している						論に一貫性がある（矛盾・飛躍がない）					
Aさん（朝日新聞・平成25年5月16日付）	Bさん（中国新聞・平成25年5月9日付）																																																																		
<p>（略）</p>																																																																			
観 点	A		B		評価基準																																																														
	1回目	2回目	1回目	2回目																																																															
一つの意見をはっきりと述べている					○：きちんとできている △：できているが十分ではない ×：できない																																																														
意見の根拠を述べている																																																																			
意見の根拠に客觀性（説得力）がある																																																																			
具体例を用いて説明している																																																																			
他の意見について触れている																																																																			
他の意見に対する反論がある																																																																			
比較・対比によって意見を導き出している																																																																			
論に一貫性がある（矛盾・飛躍がない）																																																																			
<p>■どちらの文章の方が、より説得力がありますか。理由もあわせて説明しなさい。</p> <p>二つの意見文のうち、より説得力があるのは <input type="text"/> の文章です。その理由は、<input type="text"/> あります。</p> <p>左にある表からA・Bの文章の違いを理解した上で、評価の記述をさせた。書き出し方を指定し、論理性の評価から生徒の記述がずれることのないようにした。</p> <p>評価の観点を表にし、○・△・×の3段階で評価させた。本研究授業においては、批判的思考のスキル習得の段階であるため、その評価は単純に3段階とし、生徒が取り組みやすくした。また、評価は、1人での評価とグループでの意見交換後の評価の2回を書き込めるようにした。</p>																																																																			

図4 ワークシート（新聞投書記事における評価）

第1段階として、投書記事の内容についての疑問点や納得のいかない点を挙げさせてから、1人で1回目の評価を行わせた。しかし、この時点での生徒の評価は、テキストとの関連がまだ漠然としていた。

第2段階として、グループでの意見交流や発表を通して、その疑問点をクラス全体で共有し、その根拠を文章中に求めて検討させた。このことは、批判的思考を働かせながら評価する姿勢を生み、観点による評価もより正確になると考える。

その後、第3段階として、これまでの学習活動を基に、投書記事における論理性の評価を記述させ、まとめとした。

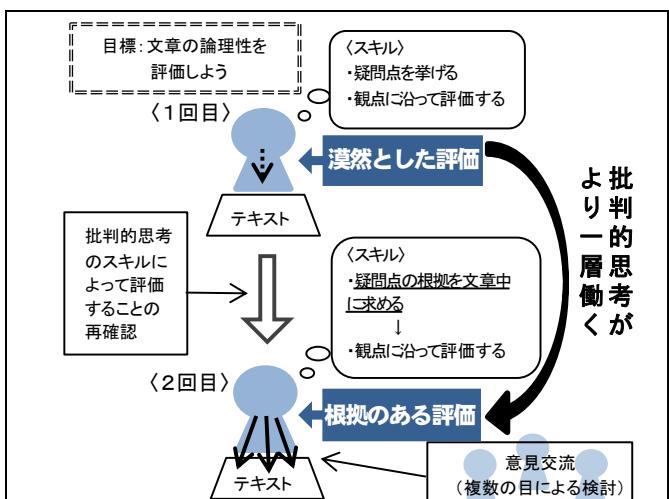


図5 新聞投書記事を評価する学習活動

## V 研究授業の分析と考察

### 1 論理性を評価する力が高まったか (1) プレテスト・ポストテストによる分析

プレテストに比べポストテストでは、より説得力のある文章としてA（正解）を選んだ生徒は、62人から68人へと変化し、6人の増加がみられた。

プレテスト・ポストテストにおいて、説得力のある文章の選択が、B（不正解）からA（正解）に変化した生徒aの記述を抜粋する。

#### ○プレテスト

Aさんは書いている内容がほぼ一緒だが、Bさんは2種類のことながらを出している。（中略）Bさんの文章の方が説得力があると思います。

#### ○ポストテスト

文に一貫性があるということです。Bさんの文は値段のことについて書いてみたり最近のことを書いてみたりと矛盾しているが、Aさんの文は電子辞書について関連することについてしか述べられていないので、Aさんの方がより説得力があると思いました。

#### 論の一貫性に関わる生徒aの記述

プレテストでは、論が飛躍していても複数の話題を取り上げていることを良いこととして評価しているが、ポストテストでは、論の一貫性に注目し、筋道が整っているかどうかという観点で評価することができていることが、下線部より分かる。この生徒aは、評価する際の観点を知ることにより、話題が多い方が良いという自分の好みを根拠として判断することから、文章の記述を根拠として論理性を評価することができるようになったと考える。

なお、プレテストの段階でも62人(83.8%)が正解の文章の選択をしている。しかし、図6・図7にある観点ごとの人数変化を併せてみると、プレテストでは、文章の内容や表現を根拠に評価をしている生徒が少ないと分かる。これらのことから総合的に考えて、正しい観点によって論理性の評価ができた生徒は増えているといえる。

図6は、図中の観点を指摘して論理性を評価できた生徒の人数変化を示したものである。また、図7に、間違った観点によって論理性の評価をした生徒の人数変化を示す。

図6より、プレテストに比べてポストテストでは、観点に沿って論理性の評価ができた生徒が増えていくことが分かる。また、図7より、批判的思考のスキルを習得した生徒は、ポストテストにおいて、文

章のテーマを意識し主觀ではなく文章の内容や表現を根拠に評価できるようになったといえる。

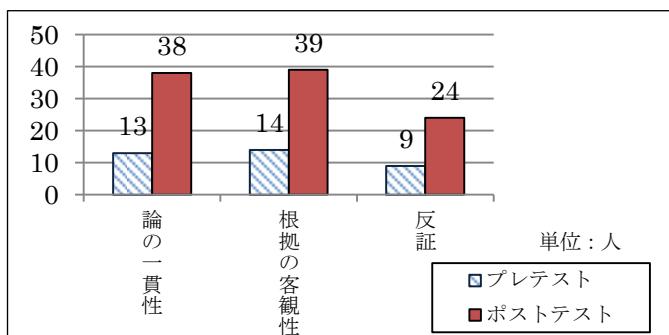


図6 観点を指摘できた生徒の人数変化

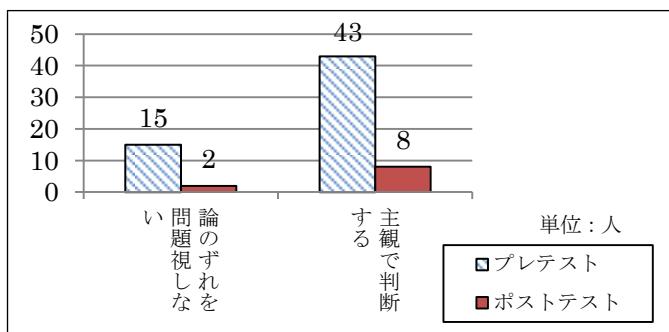


図7 評価の観点に問題のある生徒の人数変化

プレテスト・ポストテストの判断基準による分析を図8に示す。この結果について有意水準1%片側検定でt検定を行ったところ、事前と事後では有意な差が見られた。このことから、生徒の論理性を評価する力を高めることはおおむねできたと考える。

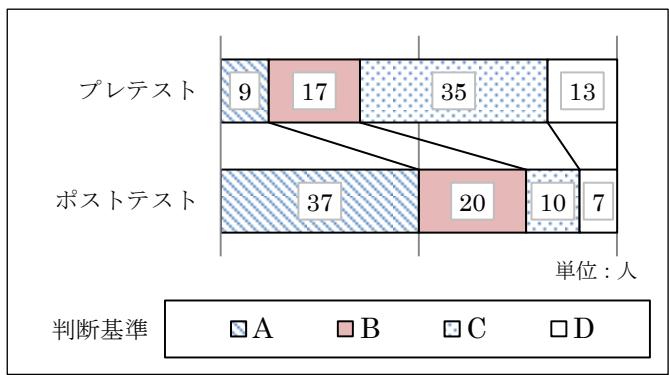


図8 プレテスト・ポストテストの結果

C評価の生徒が、35人(47.3%)から10人(13.5%)に減少していることから、表1、力1の「文章中の根拠を基にして評価することができているか。」が生徒に身に付いたといえる。また、B評価以上の生徒が、26人(35.1%)から57人(77.0%)に増加していることから、力2の「文章の構成や展開から筆

者の表現意図を捉えることができているか。」についても、生徒の力が高まったといえる。

次に、プレテスト・ポストテストのいずれにおいても、D評価であった生徒bの記述を挙げる。この生徒bは、プレテストにおいては、自己の経験から賛同できる文章を説得力のある文章として選び、文章に根拠を求めるという読み方ができていない。しかし、ポストテストでは、観点に沿って文章を根拠に評価しようとする姿勢がみえる。ただし、内容の読み取りに問題があり、正解の文章を選ぶことができない。このことから、正しい評価をするためにも、情報を正確に読み取る読み解力の育成も併せて行わなければならないことが分かった。

#### ○プレテスト

(Bの) 文章のはじめに書いてある「電子辞書は高価であるからだ」というような意見はとても良い意見だと思います。理由は、授業中、授業には全く関係ない言葉を調べている人がいて先生に怒られているところを見て、電子辞書は不必要なものであると思ったからです。

#### ○ポストテスト

(理由は) Bの文章の内容は一貫性があるからです。Aの文章では、途中に電子辞書の利点を入れているのに対し、Bは、初めの意見から最後の意見まで、電子辞書は反対だという意見を主張しています。

#### プレテスト・ポストテストの両方でD評価であった生徒bの記述

また、プレテストにおいて、「具体的（具体性）」という語を使用して説明している生徒が14人いた。これは、一見評価の観点（具体例を用いて説明している）を踏まえているかのように見えるが、語の使われ方を見ていくと、反証や丁寧な説明があることなどを「具体的（具体性）」と取り違えていた。このことは、生徒が評価の観点を正しく理解していないことから起こると考える。この生徒達は、論理性の評価の観点を学んだ上で論理性を評価する学習活動を経験すると、ポストテストでは、「具体的（具体性）」の使われ方は正しくなった。

## 2 批判的思考のスキルを習得する学習活動は、論理性を評価する力の育成に有効であったか

### (1) ワークシートによる分析

1回目の評価の際に、投書記事の内容について生徒がもった疑問点の主なものを次に挙げる。

- ・長嶋氏がどのような選手か分からない。
- ・国民栄誉賞が、どのような基準で決まるのか分からない。
- ・スポーツは「記録」が大事なのだろうか。

#### 投書記事の内容について生徒がもった主な疑問点

このような疑問点の説明にあたる記述が文章中にあるかを改めて意識しながら読み直し、グループで意見交流しながら2回目の評価をさせた。

1回目の評価では、言い回しのきついAの文章に反感を感じ、Bを説得力のある文章として評価した生徒の方が多かった。しかし、生徒の挙げていた疑問点で一番多かった「長嶋氏がどのような選手か分からない」から、A、Bのどちらの文章が氏の選手としての実績がより分かるかを意識して再読すると、生徒は具体的な記録を用いて説明しているAの方が、説得力を高めていると気付くことができた。

1回目、2回目それぞれの論理性の評価における正答率の変化をみると、批判的思考を働かせることを改めて意識して評価した2回目において、正答率が上がった生徒が30人(51.7%)いた。このことから、批判的思考のスキルの習得は論理性の評価に有効であったといえる。

次の文は、前述した生徒bが新聞の投書記事について評価した記述である。新聞投書記事の評価では、プレテスト・ポストテストと違って、記述の前に観点に沿った評価を表にまとめ、生徒はどの観点において二つの文章を比較すれば良いかを理解している。その結果、文章を根拠に評価を具体的に説明することができていた。したがって、生徒bも論理性を評価する方法は理解できているといえる。

(理由は) 第3段落に書かれている、他の選手との順位を比べる内容があるからです。Aさんは、長嶋氏だけの記録にこだわらず、張本氏やイチロー氏などの選手と比べて「張本氏はほとんどの記録で長嶋氏を上回っている」という文章を言っています。だから、国民栄誉賞を受賞するのはおかしいというのは、とても説得力があります。

#### 投書記事についての生徒b（プレテスト・ポストテストの両方でD評価）の記述

また、プレテスト・ポストテストにおいて、C評価からA評価に変化した生徒cの記述も挙げる。

この記述からも、生徒cは論理の整っている文章の条件を理解していることが分かる。理解した観点を意識して文章を評価できていることは、批判的思考のスキルを働かせているといえる。

(理由は) 文章に一貫性があるということです。Aさんの文は、意見→根拠→そこから考えること、と文にまとまり、一貫性があります。しかし、Bさんの文は、意見→Bさん自身の気持ち→いきなり長嶋選手が語っていた言葉に変わる、と文のまとまりがはつきりしておらず、いきなり話が飛んだり、ずれたりしていました。だから、Aさんの文章が一貫性を持っていると思いました。

投書記事についての生徒cの記述

## (2) プレテスト・ポストテストによる分析

批判的思考を働かせることは、意見の根拠が文章中にあるかどうかの判断だけでなく、その根拠の客観性の吟味にまで及ぶと考える。そのことができているA評価の生徒は、プレテストからポストテストにおいて、9人から37人に増加した。生徒dの記述を挙げる。ポストテストでは、「的確な根拠」という説明で根拠の客観性に言及していることが分かる。

### ○プレテスト

Bの文章では、お金の問題や持ち運びの便利さについて書いた後、結論で「辞書をしっかりと引いてもっと言葉の数を増やす学習に取り組むべきだ」と述べているけど、これは無理に紙の辞書でなくて、電子辞書でも同じことだろうと思ったからです。

### ○ポストテスト

(理由は) 意見についての根拠です。Bさんの根拠では、「高校での学習には紙の辞書で十分である。」と述べていますが、このことに直接関係する根拠が述べられていません。それに対し、Aさんは違う意見を取り上げながら的確な根拠を述べています。

根拠の客観性に関わる生徒dの記述

また、論理性の評価の観点がどのくらい意識されているか見取るため、評価の観点に関わる語として、下記の言葉の使用数を比較した。

筋、論、利点（メリット）、欠点（デメリット）、事実、根拠（理由）、具体的（具体性）、比較、反論、つながり、まとまり、主観的、客観的（客観性）、一貫性、強調

### 評価の観点に関わる語

プレテストからポストテストでは、生徒の語の使用数は、74から172に増加した。また、上記の語を全く使用していない生徒の人数が、22人から10人へと半数以下に減少している。このことから考えると、批判的思考を働かせ、論理性を評価する際の観点を意識しながら評価した生徒が増加したといえる。

これらのことから、批判的思考のスキルを習得する学習活動は、論理性を評価する力の育成に有効であったといえる。

# VI 研究のまとめ

## 1 研究の成果

批判的思考のスキルを習得する学習活動を通し、生徒は論理性を評価する際の観点を学習し、その観点に沿って評価しようとする姿勢を身に付けることができた。主観的判断で漠然と評価する状態から文章中の根拠をもって評価できるようになったことは大きな成果といえる。

このことにより、「現代文B」の「読むこと」の学習活動において、批判的思考のスキルを習得することは、論理性を評価する力を育成することに有効であることが明らかになった。

## 2 今後の課題

論理性を評価する学習活動を他のテキストでも継続的に実践し、評価する力が生徒に定着しているかについて、その成果を検証していく必要がある。そして、批判的思考のスキルの有効性について、より具体的に見取る方法についても研究していくことが求められる。

また、自己の表現の客観性、妥当性を吟味する場合に批判的思考を働かせる方法についても開発することが必要であると考える。

### 【引用文献】

- 1) 文部科学省（平成21年）：『高等学校学習指導要領』 p.29
- 2) 文部科学省（平成22年）：『高等学校学習指導要領解説国語編』教育出版 p.58
- 3) 西辻正副（平成21年）：「高等学校国語の指導の改善(13) 高等学校国語が目指すもの⑬」『中等教育資料9月号』ぎょうせい p.45
- 4) 文部科学省（平成22年）：前掲書 p.58
- 5) 文部科学省（平成22年）：前掲書 p.42
- 6) 国立教育政策研究所教育課程研究センター（平成25年）：「特定の課題に関する調査（論理的な思考）調査結果～21世紀グローバル社会における論理的に思考する力の育成を目指して～」 p.192
- 7) 有元秀文（2008）：『必ず「PISA型読解力」が育つ七つの授業改革－「読解表現力」と「クリティカル・リーディング」を育てる方法－』明治図書 p.59
- 8) 道田泰司（2000）：「批判的思考研究からメディアリテラシーへの提言」『コンピュータ&エデュケーションVol.9』コンピュータ利用教育協議会 p.54
- 9) 楠見孝（2011）：『批判的思考力を育む－学士力と社会人基礎力の基盤形成』有斐閣 p.229